

宮中で天皇陛下が年の始めに催しに
られる歌会を「歌会始」といいます。
これは事前に定められた共通のお題で
歌を詠み、その歌を披露する会です。
その昔は、「歌御会始」と言い『外記
日記』に龜山天皇の文永四年（一二六七
年）宮中で歌御会が行われたことが明
記されており、歌御会始の起源は遅く
とも鎌倉時代中期まで遡ることができ
ます。その後一時中断する時期なども
ありましたが江戸時代頃にほぼ毎年催
されるようになります。大正十五年の

神まつる
守らむと
君をかしこむ
上皇后陛下
昔の手ぶり
旬祭に発たす

皇室儀制令の制定により「歌会始」と
名称が変更、昭和二十二年には皇族の
みならず国民からも和歌を募集する現
在の形となりました。それと併せて
「勅題」から「お題」に歌作りが平易なも
のと変わり、国民と共に楽しむ歌会始
となりました。和歌は日本語の最も美
しい姿であり、その歌の言葉に宿る力
「言霊」によって幸がもたらされます。
多くの和歌を詠み、常に国の平安を
祈ってこられた歴代天皇の大御心は
今上陛下にも受け継がれております。

神道知識への誘ひ「旬祭」

宮中三殿において毎月の一
十一日、二十一日には神々へ
国家国民の平安をお祈りする
「旬祭」が執り行われます。
主に掌典長が祭典を行います
が、原則として一日の旬祭に
は天皇陛下の御拝礼があり、
陛下御親ら神々に感謝し国家
国民の平安を祈念されます。
全国の多くの神社でも、「月次
祭」など名称の違いはありま
すが、毎月一日に神様へ日々の
御礼とご加護をお祈りする祭
典が行われます。

元始祭（三日） 天皇陛下御親ら皇位の始まりを祝う祭り。全国の神社に於いても宮中に倣い、皇室の繁栄と国家平安を祈ります。
昭和天皇例祭（七日） 皇霊殿と武蔵野陵において、昭和天皇の御霊へのお祭りが行われます。

